



## 付 30 話 三菱製のミニコン 紳士服設計プロジェクト No.3

長くなっただが、再度、紳士服設計プロジェクトについてお話しする。半年近くかかって、仕様書を元にソフトが出来上がってきた。外枠ができただけで、これからが一苦労。ハード一式を設置し、メンテナンスシステムを用いて各種の情報やデータを設定し、システムを構築する。まずは、A社が使っていたマスターパターンを登録する。データを設定した後、型紙を出力して確認する。この作業の繰り返しである。ソフトの不具合を調整・変更しながら、段階を追ってシステムを作り上げていく。この作業には時間と労力がかかり、本当に大変である。

日常業務である注文書のデータ入力から型紙の出力まで、通し操作を何度も行い、不具合を取り除いていく。この種のシステムは、プログラムソフトより、むしろ内部情報が重要である。そこには、スーツに関する知識と職人の知恵が詰まっている。熟練工の技術が、コンピュータによって誰にでも引き出され、機能と美を備えたスーツの型紙となる。描かれた型紙は、人間左右対称なので半身を描く。生地を二つ折りにし、その上に型紙と重りを載せ、丸刃のローラーカッターで、カット線に沿って切り離す。指図書と共に各パーツを次の工程に流す。

スーツ職人の美意識は独特であり、大工のそれに通じる。例えば、「いせ込み」という技術がある。2つのパーツの縫い合わせで、2点間の曲線長さを少し変えて、型紙を描く。縫子は長い方を少しずつたぐり、2点を合わせる。スーツには独特の立体感が生まれる。この長さの違いと職人の技は絶妙であり、スーツに独特の雰囲気や高級感を与える。また、ストライプや格子柄では、パーツ接合部で柄が繋がるのが重要。2つのパーツのある点に印を付け、その点を合わせると柄がピタリと繋がる。これぞ職人の知恵。ただし生地は生き物、傷あり、柄も多少曲がっている。適切に差し込みしても、そのままカットできない。この場合、型紙を切り離し、職人が位置をずらして生地をカットする。

全ての開発工程が終了し、試運転を行う。ここでもデータ設定の不具合を調節する。1, 2週間は不安であったが、何とか止まることなく動いている。これで漸く、客の型紙を出力することができる。

システムが順調に動き出した頃、「オーダー縫製業界初の型紙作成 CAD システムの開発に成功」と NHK のニュース番組で放送された。ご褒美である。その後もシステムの調節や開発を続け、装置を改変する。縫い工程においても三菱電機と技術提携し、多品種・高付加価値の一着

流しの画期的な MASS システムを開発。有名ブランドのパターンオーダー加工委託を受注。CAD システムを強化するため、三菱のレーザー裁断機、島精機のカッター自動裁断機を導入、裏・表生地 of 自動裁断が始まる。バブルの崩壊までは受注数も伸び、事業も順調であった。

バブル期には、百貨店やテーラーでオーダースーツが数多く売れ、縫製工場はフル操業で仕事をこなす。ところが、一旦バブルが弾けると、低価格の既製服が大量販売され、オーダースーツの販売数は激減。元々、オーダー専門の縫製工場は中小企業が多く、景気の影響を直に受け易い。結果、工場閉鎖が相次ぐことになる。低価格のスーツが中国で大量生産、熟練の職人も激減した。これまで経営的な問題で個人経営の職人が縫製工場で働き、技術の伝承が工場で行われてきた。元々、熟練職人の高齢化が問題となっていたところに、工場の閉鎖によって、若者の職場と技術の継承が困難となる。

バブル崩壊後、受注数が減少し、A 社では加工委託の比率が高くなる。マスターパターンを流行に合わせて変更するため、設計データを直接受けるには、異なるシステムでは具合が悪い。苦渋の末、開発した CAD システムを取り止め、東レのクレアコンポをカスタマイズして使用する。

経済が上向くと再び高級志向、オーダースーツの販売数が伸び始める。低価格路線で拡大した企業も、オーダーの販売を試みるも、一旦ついたブランドイメージは変えることができず、苦戦する。一方、A 社では、経済停滞期から、オーダースーツの基本であるビスポークの精神とイタリアン・クラシカル派の技法を掲げ、高級スーツのみの加工委託と自社販売に舵を切った。結果、加工単価を上げることができ、高級ブランドのイメージを確立、現在も多くの顧客を有している。

A 社社長はリスクを伴う判断を幾度と行い、その手腕は社会から高く評価されている。さらに匠塾というスーツ職人を育てる場を提供、多くの塾生を社会に送りだしている。彼の特徴は饒舌、会議でもスーツを熱く語る。話は面白いが、職人はまたかと渋い顔で下を向く。

最後に職人に聞いた話を 2 つ紹介しよう。スーツは上着とズボン 2 着を注文し、職場では常に上着をつるし、ズボンは交代で履くよう心がける。上等なウールは一晩ハンガーにかけておくと、元の状態に戻るからが理由。ホテルやレストランでは、従業員は靴と服装を観る。本来平等なのに、そこは人間、扱いに差が出るそうだ。身ざれいなオーダースーツが良い。無論、経験がないので事実かどうか分からない。給料が上がったら、「オーダースーツを 1 着、ハイどうぞ」。きっと、日々、自信と優越感に満たされるでしょう。